

倉敷成人病センター

前立腺肥大、がんの最新療法



HBOのメリットを語る矢原主任部長

がんの放射線治療をする際は事前に造影剤を使った検査で腫瘍が低酸素状態にあるかどうかを調べる。低酸素であるほど放射線治療の効き目が悪くなる。先にHBOをし十分な酸素を体内に取り込めば、低酸素状態を改善できる。放射線治療と同様、30回まで保険適用される。同センターでは2021年4月、放射線治療センター開設に伴いHBOを導入した。

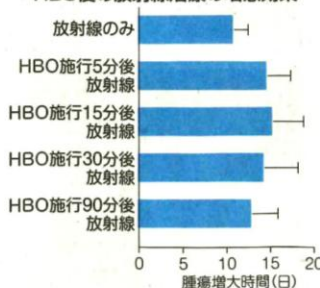


HBOの装置。高気圧状態で100%酸素を送り込む

HBO

100%酸素吸入放射線治療

HBO後の放射線治療の増感効果



放射線治療単独では腫瘍の増大を11日程度遅らせることができる。HBOを併用すればさらに増大を遅らせることができ、特に施行後30分以内に放射線治療をすれば効果が高い。

放射線治療科の矢原勝哉主任部長は前任の産業医科大病院(北九州市)に勤務していた00年ごろから取り組んでいる。同院では極めて予後が悪い脳腫瘍である膠芽腫にも威力を発揮した。この病気の平均寿命は通常抗がん剤治療をしても発症から14カ月程度だが、20例に対してHBOをしたところ、平均で2年程度まで寿命が延びた。放射線への感受性が低いために子宮にできた肉腫や大きな腫瘍、皮膚がんなどにも効果

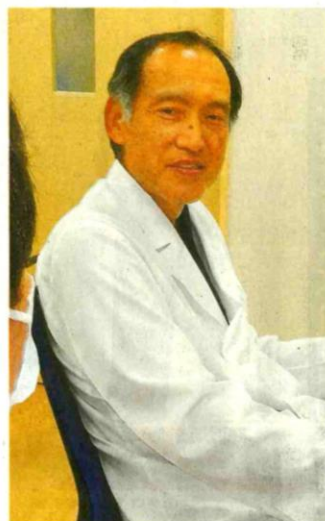
があったという。傷んだ血管を修復したり、新しい血管を作り出したりの作用があり、がんのほか、突発性難聴、脳梗塞、酸化炭素中毒などに高い効果を発揮する。殺菌効果が高く重症の感染症にもよく効く。国内ではほとんどが水病治療のために導入された。ただ人によっては肺に穴が開いて空気が漏れる気胸のリスクがあるという。事前にエックス線での肺の状態を確認している。矢原主任部長は「副作用はほとんどない。腫瘍が低酸素状態にあるなら放射線治療と併用する意義は十分ある」と話す。

倉敷成人病センター(倉敷市白楽町)は、前立腺肥大に対するWAVE治療(経尿道的水蒸気治療)、がんの放射線治療と併用するHBO(高気圧酸素治療)という二つの最新治療を取り入れている。WAVE治療は肥大した前立腺組織を水蒸気で縮小させる。HBOは窒素などを全く含まない100%酸素を吸入してもらい放射線治療の効果を高める。それぞれの治療法を紹介する。(二羽俊次)

Medica
岡山医療
健康ガイド

WAVE治療

103度水蒸気噴霧 組織縮小

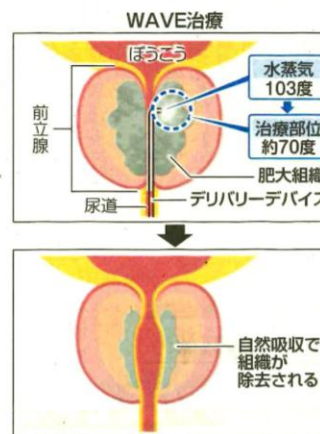


患者の問診をする山本主任部長

前立腺肥大は加齢に伴い進行。尿道や膀胱が圧迫され、尿が出にくくなり、夜間に頻尿に尿意を催したりする。悪化すると腎機能障害を起すこともある。加齢によるホルモンバランスの変化や生活習慣病との関連などが指摘されているが、原因は分かっていない。治療はまず薬物療法をする。それでも症状が進行する場合は手術を検討する。WAVE治療は2022年9月に保険適用された最新の手術法。同センターでは24年2月から実施している。尿道から内視鏡を入れ前立腺の左右に針を刺し、103度の



WAVE治療に使用する機器(倉敷成人病センター提供)



水蒸気を9秒間噴霧。前立腺の組織を壊死させ尿道を広げる。手術後1カ月ほどたつてから効果は表れる。術後5年たつても症状は安定し、再手術率は4〜5%にとどまる。治療時間は約15分。入院期間は2泊3日。ただし、1週間は尿道にカテーテルを入れておく必要がある。患者の負担は小さく、性機能を温存できるメリットもある。かつては内視鏡と電気メスで前立腺の組織を切り取る切除術が行われていたが、現在は内視鏡の先端に付いたレーザーメスで患部を切除するHoLEPと

いう前立腺核出術が主流になっている。同センターでは、症状が比較的に軽い症例はWAVE、進行した症例にはHoLEPを選択している。認知症があったり介護が必要な人は、症状を進行させないために入院期間の短いWAVEがよい。手術はHoLEPの方が難しく、その分、再発の可能性は極めて低いという。山本康雄泌尿器科主任部長は「前立腺肥大で夜間頻尿を起す」と睡眠障害を招き、QOL生活の質が低下する。自覚症状があれば早めに泌尿器科を受診してほしい」と言う。